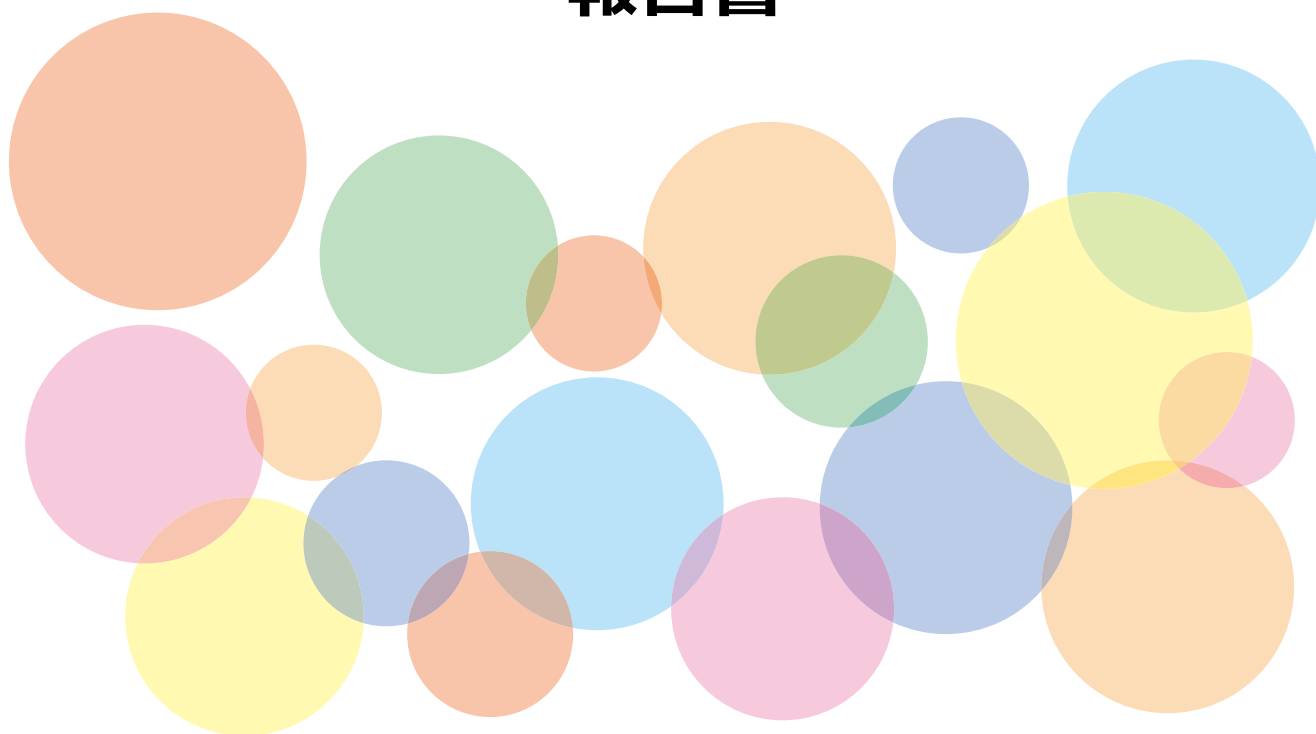


# 子供の未来応援基金

## 第3回未来応援ネットワーク事業 報告書



---

令和2年7月  
子供の未来応援国民運動推進事務局

---



## 目次

未来応援ネットワーク事業のあゆみ	1
第3回未来応援ネットワーク事業の実績	2
第3回未来応援ネットワーク事業のご紹介	
様々な学びを支援する事業	
ゆがわらっことつくる多世代の居場所	
多世代で創る子供たちの学びの場	3
あうずっと 体験活動を軸とした学びの機会を	4
居場所の提供・相談支援を行う事業	
タウンスペースWAKWAK ただいま～と言える子供たちの居場所	5
心澄 孤独化させない「校内居場所カフェ」	6
衣食住など生活の支援を行う事業	
だいじょうぶ 子供との1対1の対話を大切に	7
フードバンク福岡 もったいないをなくし、子供たちの未来を創る	8
児童又はその保護者の就労を支援する事業	
ウイズアイ 保護者が安心して就労できる環境を	9
児童養護施設等の退所者を支援する事業	
おかえり 今を、そして巣立ったあとも安心して暮らせるように	10
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	
全国こども食堂支援センター・むすびえ	
にぎわいを創り、誰も取りこぼさない社会を	11
ご寄付いただきました皆様へ	
子供の未来応援基金事業審査委員会委員長 草間 吉夫	12
子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人福祉医療機構	
NPOリソースセンター	12
第3回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧	13

# 未来応援ネットワーク事業のあゆみ

2015年4月

**子供の未来応援国民運動 発起人集会**  
 関係閣僚や経済界、教育・福祉関係者などさまざまな分野から発起人が集い、民間資金による基金創設を検討することなどを決定しました。

2015年10月

**子供の未来応援基金創設**  
 子供の未来応援国民運動の一環として、寄付を募る活動を始めました。



子供の未来は日本の未来



2016年7月～

未来応援ネットワーク事業の支援団体を  
 年1回、全国から公募し、支援団体が活動しています。

	活動期間	応募数	採択数
第1回支援団体	2016年10月～2017年9月	535団体	86団体
第2回支援団体	2018年4月～2019年3月	352団体	79団体
※ 第3回支援団体	2019年4月～2020年3月	358団体	71団体
第4回支援団体 (少額支援枠創設)	2020年4月～2021年3月	352団体	97団体

※本報告書の対象です。

子供の未来応援基金  
 すべての子供たちの未来を応援する活動を支援しています

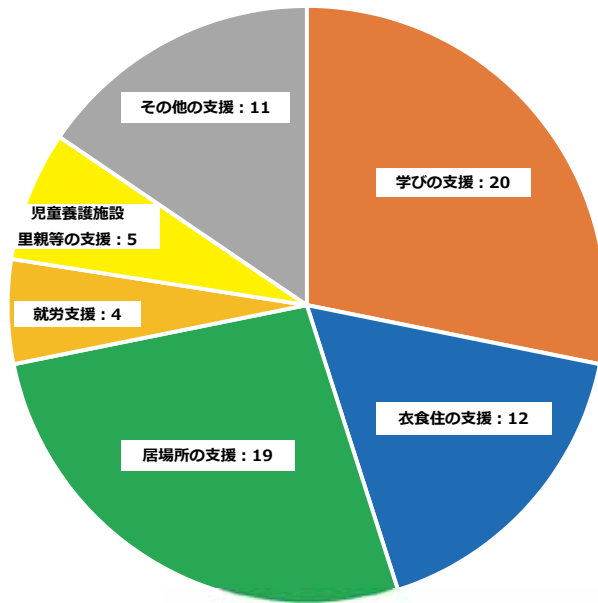


これまで多くの企業や個人の方から様々な形で支援をいただいています。



# 第3回未来応援ネットワーク事業の実績

様々な分野の71団体を支援。(新規:44団体 継続:27団体)



- 様々な学びを支援する事業:20件
- 衣食住などの生活の支援を行う事業:12件
- 居場所の提供・相談支援を行う事業:19件
- 児童又はその保護者の就労を支援する事業:4件
- 児童養護施設等の退所者等や里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業:5件
- その他の支援:11件

全国で活動を展開しました。



## 財務状況(令和元年度)

**寄付金収入：12億3632万213円(累計)**  
(令和元年度未現在)

第1回未来応援ネットワーク事業支援金(精算額)	298,419,546円
第2回未来応援ネットワーク事業支援金(精算額)	251,463,000円
第3回未来応援ネットワーク事業支援金(精算額) <small>※現在精査中のため未確定</small>	207,906,000円
寄付金残高	478,531,667円
(参考) 第4回未来応援ネットワーク事業支援金	128,641,000円

## 支援者数等

**支援対象者数**  
**281,637人**※

**支援をきっかけに連携することとなった団体数**  
**516団体**※

※ 支援団体からの報告を単純集計したもの

## 様々な学びを支援する事業



### －ゆがわらっことつくる多世代の居場所（神奈川県）－

ゆがわらっことつくる多世代の居場所は、神奈川県湯河原町において「安心してありのままでいられる場所」を提供し、子供からお年寄りまで世代を超えた様々な活動を実施しています。

基金を活用した事業では、「ゆがわらっこ大学」を年間125回開講し、子供や大人含め延べ1,572人に、豊かな経験と学びの機会を提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

### 多世代で創る子供たちの学びの場

ゆがわらっことつくる多世代の居場所は、子供だけでなく、お年寄りや地域の多様な人も集い、世代を超えて様々な活動を行うことで、あたたかい「斜めの関係」を育んでいます。

子供の未来応援基金を活用した事業では、子供たちに豊かな学びの機会を提供する学習支援事業として、子供たちの学びの場「ゆがわらっこ大学」等を実施し、生活困窮者世帯やひとり親家庭の子供たちは無償で受講できる仕組みづくりを行いました。

英会話、スポーツ、実験、アート、絵本など様々な教室を開講し、子供から高齢者まで幅広い世代が集まる「居場所」の特徴を活かして、世代を超えた対話や交流の場を多く設けることができました。

参加した子供の中に「高校に行きたい」と心の中で思っていた中学生がいました。親の反応をみて進学をあきらめ自分の可能性に蓋をしようとしていましたが、ここでの多世代交流をきっかけに本気で高校合格に挑むことを決心。中高生自習タイムに一生懸命参加し、最終的に志望校に合格することができ、私たちにとっても伴走支援しながらゴールを達成することができたことは大きな喜びでした。

参加した子供たちからも、

「自分の夢や目標を本音で話すことができたから、自分にもできるんだ！チャレンジしよう！と一歩踏み出し、目標を叶えることができた。本当に来て良かった。」

との声をいただいています。

さらに、参加した年配の方からも、

「多世代交流を通して、子供たちが抱える悩みなどを『みんな』で感じて、これからも『みんな』で支えていきたい。色々な価値観や考え方を聞く機会があることは子供にとって良いことだと思う。」

との温かい声も届いています。

そして、中学3年生の子供たちは、

「来年高校生になるけど、高校生スタッフになれる～？」

と聞いてくれています。これから、彼ら彼女たちが一緒に創り手になり、ロールモデルとして居場所にいてくれることがとても楽しみです。

今後も地域全体で子供たちの学習支援に関わり、困窮世帯の子供たちの学習意欲の向上や多世代でのつながりを通じたレジリエンスの向上につながるよう取り組んでいきたいと考えています。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他





## －あうずっと（愛知県）－

一般社団法人あうずっとは、愛知県において、貧困や家庭環境などを理由に広がる教育格差の縮小を目指して、体験支援や世代等の交流促進を実施しています。

基金を活用した事業では、親子農園事業を実施しました。年22回のべ579人が参加し、「自然」というフィールドの中で、食を通じた学びの機会を提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

## 体験活動を軸とした学びの機会を

あうずっとは、困難を抱える子供たちにとって「健やかな成長に必要な体験機会」が乏しいという現状に対し、未来ある子供たちが安心して学習に取り組み、自らの可能性を広げられる環境づくりを目的として活動しています。

例えば、土に触れ、食べ物を作ることなど「自然」というフィールドの中で、親子で一緒にやり遂げた、という経験は何事にも替え難い学びの体験になります。

そこで、子供の未来応援基金を活用し、野菜作りや米作りといった農業体験を提供するとともに、プロの農家さんによる講習会や交流会を実施しました。

名古屋市港区にある体験農園と連携したことで、高齢の農園利用者と子供たちとの交流も生まれました。

高齢の農園利用者にとっても、趣味の分野で誰かの役に立てるという充実感や貢献感がモチベーションとなり、参加者相互の交流を深めることもできました。

参加した子供たちからは、

「食べ物を育てることは大変だったけど、自分の力で野菜が育っていくことは、本当に嬉しかった。」

などの声が寄せられ、保護者の方からも、

「一人親だと子供と一緒に写った写真がなかなか撮れないから、母子の写真をたくさん撮ってもらえて嬉しかった。」

「親子で一緒に夢中になって、楽しむことができ、親子の会話も増えた。」

との感想をいただきました。

また、自ら育てて収穫した野菜を使って子供食堂を開催したり、食べきれない野菜を今必要としている子供食堂に分配するなど、フードバンクの役割も担うことができました。

このように、親子農園と子供食堂を上手く連動することができたため、参加者と支援者の垣根のないコミュニティや、これまで子供食堂に行っていない人も、これをきっかけに参加したりと、支援の輪が広まったと感じています。

何よりこの体験農園を通じて、子供たちが色々な地域の方々と触れ合い、つながりをもつことができたのは意義のあることでした。

引き続き、一人でも多くの子供たちを地域全体で支えるためのネットワークをさらに広げていけるよう、農業体験を通じた伴走支援を効果的・持続的に進めていきます。



## 居場所の提供・相談支援を行う事業

学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他



### －タウンスペースWAKWAK (大阪府)－

一般社団法人タウンスペースWAKWAKは、大阪府高槻市を拠点に、地域・家庭・学校・行政・大学・企業など様々な団体との協働のもと、子供から高齢者までの社会的包摂のまちづくりに取り組んでいます。

基金を活用した事業では、子供食堂や学習支援など6事業を展開し、延べ2,543人の子供たちに居場所を提供しました。

**子供の未来は日本の未来**

### ただいま～と言える子供たちの居場所

タウンスペースWAKWAKは、「ひとりぼっちのいないまちづくり」をテーマに生活困窮者をはじめとする、様々な課題を持つ子供たちを多岐にわたって支援しています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、生活困窮家庭などの課題をもつ子供たちの夕刻を支える場の支援「ただいま子ども食堂」や地域内外の45団体との連携による「富田わくわく子ども食堂（共生食堂）」等を実施し、多くの子供たちの居場所を提供しました。

家庭・学校・第3の居場所、それぞれの環境で見せる子供たちの「顔」は異なり、家庭の中にも様々な課題があると感じています。

だからこそ、法人単体だけで様々な課題を解決するのではなく、地縁組織や公的機関等との横のつながり、団体間それぞれの協働と求められる役割の中で課題解決していくことを、何よりも大切にしています。

このことで、地縁を超えた大家族のようなあたたかいつながりが生まれ、食材を提供していただける企業や団体も増えました。



子供食堂に参加した子供たちからは、

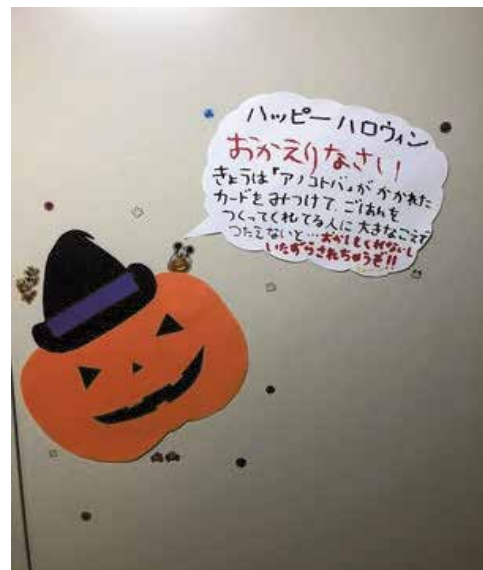
「『ただいま～！』と自然に帰って来ることができる場所、みんなと鍋をするのは初めてだった。」

また、保護者の方からも、

「WAKWAKとの出会いが地域や学校など、様々な方から助けてもらうことにもつながりました。引っ越してきて本当に良かった。」

といった、感想を聞くことができました。

今後も地域にある「声なきSOS」を見捨てないという姿勢を大切にしながら、誰もが参加できる居場所づくりを通じて、子供たちの未来を応援していきます。







## －心澄（長崎県）－

特定非営利活動法人心澄は、長崎県において貧困世帯やひきこもり等、生き難さを抱える子供たちを支援しています。

基金を活用した事業では、県下の開校数年の高校にて「校内居場所カフェ」を計17回実施し、延べ251人の子供たちに気軽に訪れることのできる居場所を提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

## 孤独化させない「校内居場所カフェ」

心澄は、どのような若年者も救われるよう、ワンストップ型の支援体制を目指し、一人ひとりに合わせた支援を行うよう心がけています。貧困世帯に多い、行き場のない不登校やひきこもりの子供たちへ、日常的にいれる居場所を提供できる取組をしています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、退学等を予防することを目的に、校内に居場所カフェ「ゆめカフェ」を実施し、多くの貧困世帯や不登校傾向の生徒と接してきました。

具体的には、高校のお昼休みに「ゆめカフェ」を年間17回開催し、延べ251人の生徒が参加しました。当初目標は200名でしたので目標を超えることとなりました。

生徒に軽食や飲み物を用意し、気軽に訪れることのできる環境づくりを意識し、相談業務の専門家も配置することで、生徒の小さなSOSを見逃さずに、予防機能が発揮できる体制を構築しました。その結果、不登校者数・退学者数についても2018年度と比較すると、2019年度では減少となりました。

参加した生徒からは、

「クラスメイトと全く話せていなかったが、校内居場所カフェを通してクラスメイトと会話することができるようになった。」

「様々な悩みや相談事を話すことができ、終了時間を過ぎても居続けたい場所だった。」

との声が寄せられました。

自分の抱える悩みや不安を相談に行くことに抵抗をもつ生徒は多いため、校内にありつつも、生徒が本音で話せる雰囲気をつくることを心掛けた結果、居場所機能としての支援につながりました。

現在、不登校や退学等の「予防的支援」は、まだまだ普及していない状況にあると感じています。

このような現状から、今後も「ゆめカフェ」を通じた居場所支援を実施し、不登校や退学等を予防することで、学歴による貧困の連鎖を防ぐための活動を継続していきたいと思えます。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

## 衣食住など生活の支援を行う事業



### －だいじょうぶ（栃木県）－

特定非営利活動法人だいじょうぶは、栃木県において、家庭生活が不安定な中高生に対して、サポート合宿等を実施し生活支援・訓練を行っています。

基金を活用した事業では、「通学型チャレンジ合宿」を実施し、延べ24人の中高生が、適切な人間関係や生活習慣のフォローを行い、子どもたちの社会性を育みました。

### 子供の未来は日本の未来

#### 子供との1対1の対話を大切に

だいじょうぶは、相談事業を核に、困窮や虐待、親の病気等の理由で安心して家で暮らせない子供たちと、その家族に寄り添う取組を行っています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、生活習慣や人間関係を学ぶことを目的に、放課後に団体が運営する施設に宿泊する「通学型チャレンジ合宿」を実施しました。

子供の生活リスクとなるのは「家族関係の貧困」です。人間関係に課題がある子供は不登校になりやすく、また、限られた人間関係の中で不適切な関係性を身につけ、将来「関係性の貧困」に陥るリスクが高まると感じています。

そうならないよう、職員との1対1の対話を重視しながら、スタッフや仲間と寝泊りし、適切な人間関係や生活習慣を身につけ、子供たちの社会性を育むことに繋げていくことを目指しています。

学校に行きたいという意思があっても、何かが重なって行けなくなってしまう。成功体験を積める機会があっても、それを逃してしまう。そうした子供たちの自己肯定感を高めるような自然体験チャレンジも週末に実施しました。

参加した子供たちからは、

「家事を皆で分担してやったが、こんなに大変だとは思わなかった。親は大変だったんだな…と思った。」

「合宿中はのびのびと生活ができた。家では一人なので、年の近い兄弟ができたようで楽しかった！」

などの声が寄せられました。

このチャレンジ合宿等を通じて、不安定な家庭で過ごす中高生は自己否定や環境否定があり「生まれ変わりたい!」という願望を強く持っていることも再認識しました。

仲間やスタッフの皆と、共同で生活することは、普段家族の中でうまくコミュニケーションがとれていなかったり、感情を吐き出す場がない子供たちにとって、とても貴重な時間なのだと感じました。

今後は、「通学型合宿」と「自然体験チャレンジ」に、小さい子どもとふれあいボランティア活動を組み合わせ、家庭生活に不安を抱える子供たちに、さらなる生活習慣や人間関係の育成と、自尊心の向上につながる取組を展開していきたいと思えます。







## －フードバンク福岡（福岡県）－

特定非営利活動法人フードバンク福岡は、危機的な状況にある家庭やシングルマザーへ食品を提供しています。また、単に食べ物を提供するだけでなく、食べ物を通じて人と人が繋がり、お互い助け合える社会を作ることを目的としています。

基金を活用し子供支援団体77団体、延べ2,803人に41.3トンの食品を提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

## もったいないをなくし、子供たちの未来を創る

フードバンク福岡は、まだ食べられる食品が多く捨てられている現状において、企業や農家あるいは個人から食品を提供してもらい、それを必要としている生活困窮者や福祉施設への支援として、活用することを目的に設立されました。

小・中学校では朝ごはんを食べてこない子供や、危機的な状況にある家庭の存在が顕在化しつつあります。こうした状況の下、子供食堂やボランティア団体、シングルマザーや学校へ食品提供を行ってきました。

子供の未来応援基金を活用し、地域や学校とともに連携を深めながら、フードバンク活動の拡充を行い、未来を担う子供たちの健全育成につなげることに取り組みました。

また、福岡市東区地域において全国で初めて商業施設内にフードバンクの拠点を作ることができました。

この結果、日常的にフードバンクに触れる環境ができたため、地域、行政、社会福祉協議会等への周知と連携が深まり、子供たちへの支援の活性化に結びつきました。

食品を受け取ったシングルマザーの方からは、

「子供を預けるところがないため、結局仕事を辞めて子供の面倒を見ることに決めた。経済的にも厳しい状況となっていたところ、食品を提供していただき本当に助かった。今後も継続してほしい。」

などの声をいただきました。

また、子供食堂に来た子供たちからも、

「おうちではこんなに好きなものを食べられないので嬉しい。それも、こうやって食材を分けてくれる人がいるおかげだと知って、すごいことだと思った。好き嫌いせず、残さず食べようと思った。」

との声も届きました。

基金の支援を受ける前の成果は、子供支援団体27団体へ15.8トンの食品提供だったのに対し、基金の支援を受けたことにより、子供支援団体77団体へ41.3トンになり、拡充することができました。

今後の取組としては、企業だけでなく家庭からも食品を集めるフードドライブ事業を行うとともに、食品を必要とする子供のいる家庭への食品提供をさらに行き渡らせるため、地域連携強化を目的とした情報交換事業も行います。

フードバンク活動は、まだ始まったばかりです。子供たちへあたたかい目を向ける地域の方々や、子供たちのよりよい未来を創る仲間として、これからも地域のみんなや関係者一体となって取り組んでいきたいと考えています。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

# 児童又はその保護者の就労を支援する事業

学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他



## -ウイズアイ（東京都）-

特定非営利活動法人ウイズアイは、東京都において、在宅で虐待等のリスクを抱えた親子家庭を対象に、一時保育・夜間保育・お泊り保育の場を提供しています。

基金を活用した事業では、日・祝祭日に40世帯に対して、年間延べ240人の子供の一時保育を行い、シングルマザー等の就労支援につなげました。

## 子供の未来は日本の未来

### 保護者が安心して就労できる環境を

ウイズアイの活動拠点である、東京都清瀬市は、核家族が多く、周辺地域に比べて女性の就労率が高いのが特徴です。保育の在り方は、保護者の働き方に最も影響を及ぼし、虐待予防のためにも24時間対応可能な窓口を設けておくことが、保護者の就労支援に繋がると私たちは感じています。

育児困難家庭の支援の目的は、母子を引き離すことではなく、子供の安全を確保するとともに、親には一時的なレスパイトの場を提供し、就労しながら再び子育てに向かえるように、きめ細かい伴走型のケアをすることです。

母子分離をただけでは、親子の愛着関係を損なう可能性もあり、根本的な解決には、親に十分な休養に加え、親自身の力を引き出すという視点が重要であると考えています。

子供の未来応援基金から支援を受けて実施した一時保育事業では、日・祝祭日を含めた24時間緊急保育まで広げ、保育園の一時保育やファミリーサポートだけでは解決できない、保護者のニーズに応えられる環境を作りました。

特にシングルマザーの利用が多く、保育園開園時間以外に就労せざるを得ない状況の家庭のお子さんを預かることで、子育てをしながら安心して就労することのできる環境向上の一助とすることができたと実感しています。

また、親の体調不良時に、親子で一緒にレスパイトを目的に宿泊できるシステムも構築したことは、頼るところの少ない親子の安全・安心な居場所にもなりました。

利用した保護者の方々からは、

「体調が悪い時に子供たちを見てもらえて本当に助かった。ひとり親でも『助けて』と言えたことが何より嬉しかった。」

「この一時保育があったから、仕事と育児が両立でき、子供への愛情もさらに深まったと感じている。」

など、本事業を通じて多くの感謝の言葉をいただきました。

今後も、日・祝祭日・夜間等含めた一時保育を通じて、育児困難家庭の保護者やシングルマザーが安心して就労できる環境を作り、保護者の就労支援に結び付けていきます。





## 児童養護施設等の退所者を支援する事業



### －おかえり（奈良県）－

特定非営利活動法人おかえりは、奈良県において児童養護施設や里親家庭で暮らす子供や、そこを巣立った人たちの居場所づくりを行っています。

基金を活用した事業では、当団体の敷地内の手作りルーム「life café」を通じて、延べ254人に相談支援や居場所づくりを提供しました。

### 子供の未来は日本の未来

### 今を、そして巣立ったあとも安心して暮らせるように

おかえりは、「児童養護施設等（以下、施設等）や里親家庭を巣立った人たちが自立し、安心して暮らせる社会づくりに貢献する」という理念の下、施設や里親家庭等で暮らしているときからのつながり作りや相談事業、啓発活動など、様々な活動をしています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、子供たちが児童養護施設や里親家庭を巣立ったあとも安心して生活を送れる環境を整えることに取り組みました。

具体的には「life café」にて、毎回20名ほどで、一緒にお昼ごはんを食べながら悩み事を相談したり、色々なことを話したり、施設等で暮らしているときからのつながりづくりを大切に、居場所の提供をしています。

参加してくれた人に、次のランチで食べたいものをリクエストカードに書いてもらいメニューの参考にしています。

加えて、中学生以上で希望する人には、ごはんを作るところから参加してもらい、スタッフと一緒に作り、作ったごはんを皆で一緒に食べたりしています。

施設職員や里親さんからは、

「『また、ごはんを食べに行こう』と誘いやすく、子供たちにとっても気軽に「おかえり」に足を運ぶきっかけになっていると感じる。」

などの声が聞かれ、

参加した子供たちからも、

「皆でご飯を食べることが楽しかったし、自分が作ったごはんを『おいしい!』と言ってもらえて嬉しかった。」

との声をいただきました。

おかえりは、施設や里親家庭を巣立ったあとも第二、第三の「実家」のような存在になればと考えています。

「life café」等、遂行した事業はどれも好評で、相談支援にも繋がっています。今後は、施設や里親家庭を巣立った人たちへの就労支援等にも裾野を広げ活動していきたいと思っています。

一つひとつのご縁を大切にしながら、一步一步、いまできることを精一杯務めていきたいと思っています。



学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他

## その他、貧困の連鎖の解消につながる事業

学び

居場所

衣食住

就労支援

児童養護施設

その他



### - 全国こども食堂支援センター むすびえ（東京都） -

特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえは、東京都において日本全国の子供食堂の運営基盤強化につながる支援を行っています。

基金を活用した事業では、全国325軒の子供食堂が「こども食堂ネットワーク」へ登録し、ネットワークの更なる促進や企業支援を実施しています。

### 子供の未来は日本の未来

### にぎわいを創り、誰も取りこぼさない社会を

全国こども食堂支援センター・むすびえは、子供たち、子供食堂、子供食堂を支援してくれる人たちの3者をつなぎ、それぞれの地域で活動する子供食堂や、それを支えているネットワーク団体（中間支援団体）を支えています。

子供食堂の活動を今後どう持続可能なものにしていくかは重要なテーマです。子供の未来応援基金を活用した事業では、全国の中間支援団体の設立支援や、「こども食堂ネットワーク」への登録促進に取り組みました。

具体的には、各地域の中間支援団体がより活動しやすくなるための情報提供や、子供食堂に関する調査・研究を行い、その意義や実態を伝える等、当団体のスタッフが各地域を訪れサポートを行っています。

また、子供食堂は、まだ歴史の浅い活動です。こうした活動を通じて、すべての子供たちが利用できる地域交流拠点となるよう、全国の子供食堂への支援を行っています。その一環として実施した「全国地域ネットワーク団体交流会」。全国から100名近い子供食堂運営者等が集結しました。

この熱気溢れる交流会に参加した方々からは、

「中間支援者として、子供食堂の発展に向けた道筋が見えた。」

「全国で頑張っておられる人と出会い、自分も負けずと明日から頑張ろう！と思える貴重な時間だった。」

との声を聞くことができました。

また、こうした交流会の後も運営者同士の交流や研修、悩み相談などの伴走支援をすることで、子供食堂を続けることができる環境づくりに寄与することができると感じています。

中間支援は、直接子供たちに関わる数が少ない活動ですが、その効果の重要性は疑いありません。

このような中間支援があることにより、子供食堂を知る人が増え、また子供食堂を始めたい人たちが増え、支援する人も窓口が一本化され、その結果、子供食堂への支援が増えることにつながります。

引き続き、「子供食堂が全国どこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整える」ことを目指して、子供たちの支援につなげてまいります。





# ご寄付いただきました皆様へ



## 子供の未来応援基金 事業審査委員会委員長 草間 吉夫

昭和41年生まれ。家庭の事情により児童福祉施設で育つ。東北福祉大学特任教授や、厚生労働省「児童福祉施設等評価基準検討委員会」委員等を歴任。平成18年に高萩市長に就任し任期満了で退任。現在は、茨城キリスト教大学で教鞭を執る。

平成28年から「子供の未来応援基金事業審査委員会」委員長に就任。

## 3回目の支援事業を終えて

創意工夫に溢れた多くの事業の中から、悩みながら、しかし自信をもって選出した第1回・第2回支援の延べ165の団体。多くの子供たちに「笑顔」と「希望」の花を咲かせ、また、それを育てようとする大人や団体、自治体、企業等との「支援の輪」を確実に広げていただきました。

この流れを受け、子供たちにとって何が必要な支援なのか、委員一同真摯に考え抜いて選出することとなりました71の第3回支援団体。事業の幅が更に広がり、ご家庭や子供たちの生活を多角的にサポートする取組が増えてきたことを実感しています。本報告書では、一部の事業を抜粋してご紹介しましたが、いずれの事業も子供たちにとって素晴らしい取組であることは疑いありません。基金を通じて更に「支援の輪」を広げ、子供たちが「夢」を持ち「可能性」を伸ばせる環境が整備されていくことを確信しています。

なお、最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症は我が国に様々な面で変化をもたらしました。民間団体における

子供たちへの支援活動においても、その手法、内容に大きな変化が見られます。こうした状況の中、多くの基金支援団体が更なる創意工夫を凝らして子供たちの支援活動を継続できていること、これは、ひとえに皆様方からの御支援と子供の未来応援国民運動推進事務局の伴走支援の賜物であると考えています。

子供たちへの支援は待ったなしです。どうか引き続きの御協力をいただければ幸いです。

### 子供の未来応援基金事業審査委員会 委員名簿（第3回支援決定時）

荒木 正	株式会社NTTドコモCSR部部长
小川 晶子	ライオンズクラブ国際協会FWTチーフ
菊池まゆみ	奈良県社会福祉協議会会長
草間 吉夫	東北福祉大学特任教授
出口 洋一	横浜市こども青少年局総務部長
西田 進	一般財団法人 アズビル山武財団専務理事
松村 淳子	京都府健康福祉部長
宮本みち子	放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授

## 子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人 福祉医療機構 NPOリソースセンター

### 第3回支援団体に寄り添って

社会全体で子供の貧困対策に取り組み、貧困の連鎖を解消するための仕組みとして「未来応援ネットワーク事業」が創設され、今回で3回目を迎えました。

未来応援ネットワーク事業の対象となる事業は、「様々な学びを支援する事業」、「居場所の提供・相談支援を行う事業」、「衣食住など生活の支援を行う事業」など多岐に渡ります。

第3回の事業では、例えば子供食堂であれば、食事の提供だけではなく学習支援もあわせて行うなど、地域の様々なニーズに対応するため、行政機関や地元企業等とネットワークを構築し、多様な活動を実施する団体が多くみられました。

多様化、複雑化する社会課題に取り組む団体が、その地域で成果の出る活動を行えるよう、私ども福祉医療機構でもその活動に寄り添うよう心がけてきました。

支援先団体の方からも「行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「子供たちの権利を守っていく上でこの事業は必要不可欠です」等の声が直接届けられました。

この未来応援ネットワーク事業による支援の輪が地域で着実に広がっていることを実感するとともに、改めて子供の未来応援国民運動推進事務局の一員として、子育てや貧困を社会全体で支援していくための一助となれるよう気持ちを新たにしております。

今後も全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指して、支援団体の事業運営をきめ細やかにサポートしていきたいと考えています。

# 第3回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧

■ 学びの支援   
 ■ 居場所・相談支援   
 ■ 衣食住の支援   
 ■ 児童又は保護者の就労支援

■ 児童養護施設・里親等支援   
 ■ その他の支援

支援決定金額：207,906,000円  
 事業実施期間：平成31年4月～令和2年3月

## 北海道・東北

所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） <small>（単位：千円）</small>
北海道	北見NPOサポートセンター	親子タッグで“稼ぐ力と学ぶ力”を強化、ハッピーチャレンジ事業	3,000
	北海道自由が丘学園 ともに人間教育をすすめる会	AI=アイネクスト/学びあい、創りあい、繋がりあい事業	2,972
岩手県	フードバンク岩手	フードバンク子ども応援プロジェクト	3,000
宮城県	アスイク	経済的困難を抱える不登校・引きこもりの子どもたちの居場所事業	3,000
	キッズドア	低所得世帯の高校生世代を対象とした無料学習会と社会性養成事業	2,984
	STORIA	困窮家庭の子供の「生き抜く力」を育む地域連携支援型居場所事業	3,500
秋田県	秋田たすけあいネットあゆむ	子どもの命をつなぐ食糧宅配と居場所づくり事業	2,977
福島県	明日飛子ども自立の里	貧困連鎖を防止し、子供たちが夢を持ち働く為のトレーニング事業	4,191
	しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島	子どもの未来は子供の手で！子どもの生きる力応援事業	4,826

## 関東

所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） <small>（単位：千円）</small>
茨城県	ひたちNPOセンター・with you	学習を通じた居場所づくり事業－親子支援によるQOLの向上－	2,349
	リヴォルヴ学校教育研究所	無料塾における支援の質的向上を目指した研修講座等の実施事業	2,505
栃木県	だいじょうぶ	家庭生活が不安定な中高生の通学型チャレンジ合宿	517
群馬県	ターサ・エデュケーション	経済的な困難を抱える不登校の子どもへのフリースクール事業	2,959
	ひこばえ	ひこばえ無料学習会	879
埼玉県	さいたまユースサポートネット	地域の中で孤立傾向にある生活困窮世帯の子どもへの自立支援事業	3,100
	フードバンクネット西埼玉	地域に役立つフードバンクの仕組みづくり事業	5,000
	eboard	ICTを活用した子どもの学びの場づくり支援事業	2,458



東京都	ウイズアイ	シングル家庭と虐待ハイリスク家庭の為の子育てレスキュー事業	3,497
	女性のスペース 結	学童・保育園後のひとり留守番を解消する居場所づくり事業	3,947
	すみだ食堂飲食店の会	すみだ食堂	922
	全国こども食堂支援センター・むすびえ	こども食堂の全国プラットフォーム構築事業	3,522
	全国フードバンク推進協議会	フードバンク団体への組織基盤強化事業	3,000
	東京子ども子育て応援団	桜台こども食堂に発する子育て家庭を包括的に支える地域作り事業	2,959
	豊島子どもWAKUWAKUネットワーク	宿泊機能をもつWAKUWAKUホーム事業	2,946
	バルシック	子どものための居場所：みんかふえ	3,875
	ワンダフルキッズ	朝から夜まで365日いつでも居場所と食事がある安心事業	3,719
	Learning for All	葛飾区金町における貧困世帯の子どもへの学習支援事業	3,696
神奈川県	サードプレイス	こどもの困難に寄り添う支援&セーフティネットづくり	2,453
	ゆがわらっこことつくる多世代の居場所	地域の子どもの学習支援・居場所創出モデル構築事業	3,500

## 中部

所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） (単位：千円)
長野県	フードバンク信州	こども応援キャンペーン	4,096
富山県	えがおプロジェクト	ひとり親家庭ほっとサロン事業	2,518
	教育研究所	児童養護施設内における出張カフェ相談事業	268
	ハッピーウーマンプロジェクト	児童養護施設児童の自立支援	696
石川県	はびすまサークル	小学生、中学生のための無料学習支援室の拡充	564
静岡県	中ノ町げんき食堂	子ども食堂事業および留学生との交流の多文化共生事業	886
愛知県	あうずっと	困難を抱える子どもたちに食を通じた学びと居場所を提供する事業	4,012
	アンビシャス・ネットワーク	第二の家事業 テラハ	3,488
	こどもサポートネットあいち	社会的養護等退所者へ居場所（食事づくり含）&自立相談事業	3,000
	こどもNPO	公営住宅の子どもへの居場所づくりと自立に向けた社会体験事業	2,110
	「生」教育助産師グループ OHANA	児童養護施設での生きる力と心を育む助産師による教育・相談活動	894
	全国再非行防止ネットワーク協議会	帰宅先がなく出院できない少年の社会復帰支援と官民連携推進事業	5,000

近畿

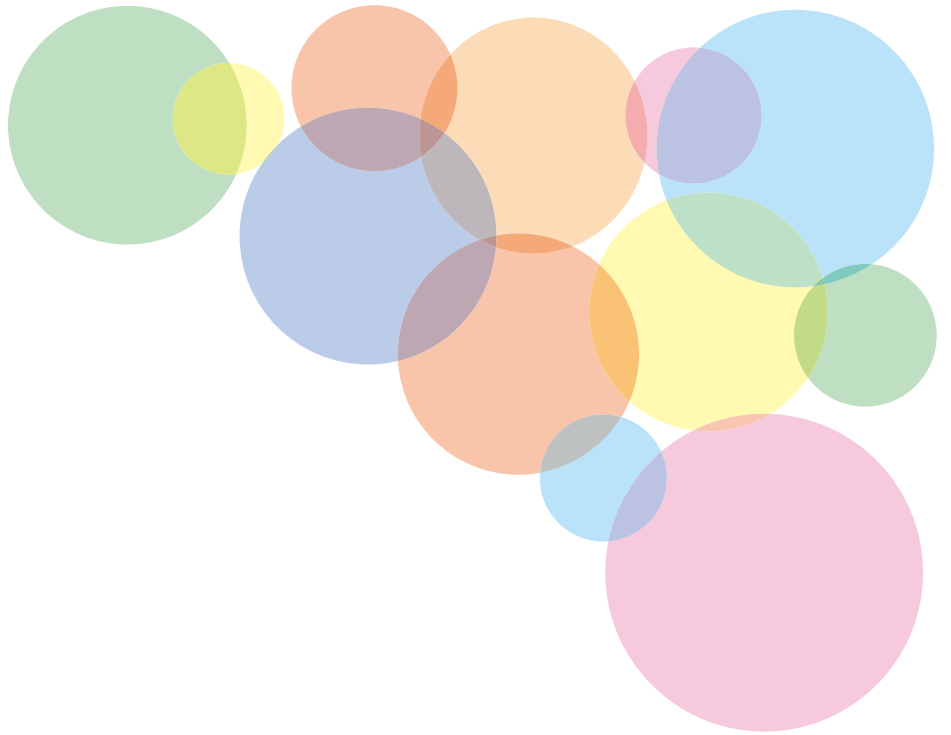
所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） <small>（単位：千円）</small>
滋賀県	あめんど	貧困状態にある子どもたちへの心理、社会的健康を促進する学習室	2,211
	わか	子どもの夢中全力サポート	2,725
大阪府	アートコミュニティ	輝け未来！ヒーロー研究室	3,000
	大阪市よさみ人権協会	地域で支えるチャイルド・ブア0（ゼロ）事業	3,536
	キャリアブリッジ	『定時制高校生の社会的自立を応援する』多機関連携事業	2,400
	タウンスペースWAKWAK	ただいま～と言える子どもたちの居場所づくり事業	3,066
	ハートフレンド	地域の社会資源や学校との連携による地域まるごと子育て支援事業	1,878
	ふーどばんくOSAKA	ふーどばんく食品を活用した2種類のセーフティーネット構築事業	3,500
	未来SS塾	豊中市立第一・第四中学校区における生徒への学習支援事業	622
兵庫県	こどもサポート財団	「子ども食堂」から『みんな食堂』、そして『地域みんなの家』へ	3,405
	女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	母子家庭の子供たちの生き抜く力を育む居場所事業	3,500
	フードバンク関西	子ども元気ネットワーク事業（母子世帯への定期的食支援）	4,942
奈良県	おかえり	里親家庭や児童養護施設等を巣立った人の居場所づくりと啓発事業	3,485
	市民ひろばなら小草	経済的に困難を抱える家庭の子どもたちへの無料の学習支援事業	1,634
	Genki Future Dreams 47	知識、ふれあう気持ち、おなかがいっぱいになる学習支援食堂事業	5,000

中国・四国

所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） <small>（単位：千円）</small>
鳥取県	こども食堂「ネバーランド」	地域子育て支援拠点環境改善事業（こども食堂運営）	1,715
岡山県	あかね	不登校や貧困などの困難を抱える親子の社会参加応援事業	1,200
山口県	山口せわやきネットワーク	こども明日花プロジェクト	3,000

## 九州・沖縄

所在地	団体名称	事業名	支援額（当初交付額） <small>（単位：千円）</small>
福岡県	いるかねっと	福岡市の教育格差を体系的に解消するこども学習支援拠点設立事業	5,000
	フードバンク福岡	未来を生きる子どもを応援するフードバンク活動の拡充	5,000
	抱樸	地域連携による高校中退防止及び社会からの孤立を防ぐ事業	3,000
長崎県	心澄	退学等予防のための校内居場所カフェ事業	793
	バスターミナル学習室	「子どもの貧困化」を起因とする学力格差を補う取組	2,532
熊本県	いこいスペース ∞ こあ まるちゃん家	食堂を拠点に天草の子どもと親を地域で見守り自立支援する事業	4,934
	逢桜の里	専門のボランティアを養成し安心できる子どもの未来をつくる事業	3,238
	スタディライフ熊本	児童養護施設等の退所者への自立支援事業	4,951
	ブリッジフォースマイル	熊本県における自立支援、退所後支援事業立ち上げ	2,407
大分県	まど	制度の狭間で困難を有する者への学習支援と居場所づくり	4,447
宮崎県	らしくサポート	多様な子供達を受け入れる為の教室の環境整備と親の就労の場創り	2,000
鹿児島県	鹿児島ボランティアバンク	生活困窮及びひとり世帯の親子就・学一体支援ステップアップ事業	3,000



---

---

【基金についてのお問合せ先】

独立行政法人福祉医療機構



TEL:03-3438-0211

【事業全般についてのお問合せ先】

内閣府 子供の貧困対策推進室



内閣府

TEL:03-6257-1438



子供の未来は日本の未来

子供の未来 応援



リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。